

麦畑で鮮やかな青色の花を咲かせる ヤグルマギク

協友アグリ株式会社 普及営業部
徐 錫元

愛知県の田畑輪換圃場では、水稲－コムギ－ダイズの輪作が行われている。2000年代初頭より、当地では6月下旬から11月ころまでのダイズ栽培において帰化アサガオ類が(平岩ら 2007; 徐 2007), また、晩秋から初夏のコムギ栽培ではネズミムギが問題化し(徐 2011), 今に至っている。コムギの登熟期になると圃場の所々に鮮やかな青色の花が咲き驚いた(図-1)。その後、これがヤグルマギク(矢車菊 *Centaurea cyanus* L.)であることがわかった。当地では、様々な帰化雑草が侵入していたことから(徐 2007, 2009), ヤグルマギクもこれらといっしょに侵入してきたものと考えられる。

ヤグルマギクはキク科の一年生雑草で、原産地は地中海のバルカン半島(清水ら 2001)。元々はムギの雑草で、観賞用に品種改良が行われ、日本には明治年間に入ってきた(清水ら 2001)。ドイツ、マルタ、エストニアの国花でもある。現在、雑草として問題化しているのは、埼玉県や長野県の麦単作の連作圃場である(青木ら 2014; 関口 2014)。一方、愛知県などの水稲との輪作体系コムギ圃場では、その発生は散見する程度で大きな問題には至っていない。これには、後述するようにヤグルマギクの種子は湛水条件で死滅しやすいことによる。

■ヤグルマギクの生育パターンと形態的特徴

埼玉県でのヤグルマギクの出芽は9月～11月、ロゼット状で越冬し、早春に茎立ちし、開花結実は4月～6月である。生育経過がムギと類似していることから防除が困難であり、蔓延しやすい(関口 2014)。

茎は直立し、分枝も多く茎葉は細い(図-2)。コムギ畑では、草高はコムギの穂よりもやや高い(図-1)。茎の先端に直径5cm程度の青色や赤色の筒状花を着ける。茎が細く倒れやすいのでムギの倒伏にも影響する。

■防除法

除草剤: 一般に播種後の土壌処理剤は効果が低い。しかし、生育期の茎葉処理剤ではアイオキシニルやベンタゾンで効果が高い(青木ら 2014; 関口 2014)。

耕種的防除: ヤグルマギクでは湛水処理による種子の死滅効果が高い。また、麦収穫後の不耕起状態でも種子の死滅が



図-1 コムギ畑での開花中のヤグルマギク(2008年5月上旬, 愛知県安城市)



図-2 ヤグルマギクの成植物(2008年5月上旬, 愛知県安城市)

高まる(青木ら 2014; 関口 2014)。

ヤグルマギクは、湛水条件で種子の死滅効果が大きいことから、水稲との輪作体系では大きな問題となることはないと考えられる。しかし、水稲との輪作をしないダイズ－ムギ、またムギ単作では蔓延となることが予想されるので、このような地帯では注意が必要である。

■引用文献

- 青木政晴ら 2014. 長野県のムギ作におけるヤグルマギクに対する播種時期移動、夏期圃場湛水、除草剤による防除効果. 日本雑草学会第53回大会講演要旨集, 15.
- 平岩 確ら 2007. 愛知県田畑輪換水田土壌における帰化アサガオ類の発生状況. 愛知農総試研報 39, 25-32.
- 関口孝司 2014. 埼玉県の麦作における難防除雑草の防除(カラスノエンドウ・ヤグルマギク). 雑草と作物制御 10, 13-15.
- 徐 錫元 2007. 愛知県の農耕地における帰化アサガオ類の発生の現状と脅威. 植調 41(1), 17-23.
- 徐 錫元 2009. 東海・北陸地方のダイズ畑における新たな問題雑草. 雑草研究 54(別), 133.
- 徐 錫元 2011. 愛知県愛西市のネズミムギ多発コムギ圃場におけるネズミムギ多発要因について植調 45(4), 21-27.
- 清水矩宏ら 2001. 「日本帰化植物写真図鑑」. 全国農村教育協会, 東京, pp. 334.